

4 前回調査で明らかとなった課題への対応方法の検討

4.1 本年度のプレ調査について

死傷損失については、平成 27 年度のプレ調査において、死傷損失を回避することに対する WTP の調査手法の改善案を検討し、その検討結果を踏まえ、平成 28 年度に死傷損失の本格調査と算定を行う予定となっている。

昨今、対面による調査が困難になりつつある（名簿情報の取り扱いの難化、費用の高コスト化。本調査のアンケート内容から、対面で回答する被験者の負担が大きい等）ことから、WTP に対する調査方法についても、インターネットによる方法が主流となってきている。

また、既存の研究の中でも、インターネットによる方法の妥当性について、検討されている例もある。一方、訪問面接回収法についても、家に長くいる人の回答が多くなるなど、サンプルに偏りが生じる可能性等の課題が指摘されてきている。

平成 28 年度における WTP の調査手法については、上記や調査の予算等も踏まえ、インターネットにおける手法を想定している。

表 4.1-1 WTP をインターネットで実施することの妥当性に関する研究事例

論文名	著者	内容
国民にとってのエリートスポーツの価値	舟橋弘晃 間野義之 (スポーツ産業学 研究 Vol23、NO.2)	ネット調査でも、標本が母集団を反映するよう、性別・年齢階層を母集団比率に反映、調査実施期間を短縮、抵抗回答の除去、母集団との歪みを重み付けで修正して WTP 算出等により、厳密性を有した評価がなされているといえる。

4.2 本年度のプレ調査の検証事項

来年度の本格調査に向け、プレ調査をインターネット調査で実施した。

また、プレ調査における検証事項を次のとおり設定した。

表 4.2-1 過年度調査の課題及び有識者意見をふまえたプレ調査の検証事項

死傷損失	検討項目	課題	本年度のプレ調査における検討
共通	算定範囲	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 被害者の家族及び友人、加害者の家族などが被る損失について、算定されていない ㊦ 物損に伴う非金銭的損失が算定されていない ㊦ CV法において、自らの財産的損害を含めた回答とならないようにする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 家族の悲しみ、加害者の悲しみ等については、現段階では定義や定量化できる指標（家族や友人の範囲や加害者の責任の重さと加害者本人の実感との相関等）の研究が十分でなく、今後の検討としたい ㊦ 重症の負傷区分には、前回と同様、SG法を用いる
	損失額の算定方法	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 年齢によって値が異なるという考え方もある 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 年齢別のWTPの違いを明確化するため、インターネット調査の特性を活かし、可能な限り十分な年齢別のサンプルを収集
死亡損失	損失額の算定方法	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 前回調査において、既存調査の死亡損失額より高めの損失額が推計された 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 死亡損失については、順序バイアスや対象財の影響が考えられるため、バイアスを除去した調査や対象財を変更した調査を追加し、スコープテストを実施予定
負傷損失	各区分の損失額の算定方法	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ SG法によって得られた算定値と確定CV法で得られた算定値の間に乖離がある ㊦ 負傷者1名当たり損失額について、算定精度の向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 前回調査で確定CV法、SG法両方で調査した負傷区分Yについては、SG法の聞き方（回答選択肢）を変えた群を設ける。 ㊦ 併せて負傷区分Y以下についてもSG法で調査し下限値の検証を行う
その他	その他指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 個々の負傷のCVMを一つのアンケートで何度も聞く方法は一般的ではない 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 1被験者あたりの設問を少なくする。 ㊦ 順序バイアス排除の観点からも、複数区分に渡る負傷区分を同一被験者に聴取しない（1人1区分）
		<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 歩行者事故、運転者の事故ではWTPの価格は変わると思料 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 被験者がどの立場（ドライバー/同乗者/歩行者）を想定して回答したか調査
		<ul style="list-style-type: none"> ㊦ インターネットアンケート結果については、スコープテストや、WTPで所得との相関の高さで、確認するとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 調査結果は、年齢別、所得別等の様々な観点でクロス集計を実施 ㊦ 各種スコープテストや有意差検定等については、次年度実施予定
		<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 回答時間や、同じ質問に同じ回答かどうか確認も必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 非理解、抵抗回答の他、非協力的（設問をよく読まずに回答している等）について、回答時間等を加味し、分析予定